NIE実践報告

1．タイトル：☆これからの食料問題について「発信」しよう

2．学校名

広島県北広島町立豊平東小学校

3．実践者名（代表者名）

野川　智毅

4．学年

第5・6学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　15人

6．単元（本時の学習課題）名

これからの食料生産とわたしたち①

7．目標(狙い)

外国産の食材の安全性や食料の自給率の実態、喫緊の食料事情を理解し、これからの我が国の食料生産のあり方に対して自分の意見を持つ。

8．評価の視点

外国産の食材の安全性や我が国の食料自給率の実態、喫緊の食料事情を理解し、これからの我が国の食料生産のあり方に対して自分の意見を持つことができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

社会科教科書教材「わたしたちの生活と食料生産」(全26時間)中、「これからの食料生産とわたしたち①」(4時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①外国産の食材の安全性や我が国の食料自給率の実態について理解する。（2時間）
②新聞資料から、異常気象の影響等による喫緊の世界食糧事情について理解を深める。（1時間）
③既習事項を振り返りながら、これからの我が国の食料生産のあり方について自分の意見を持つ。（1時間）

（留意点）
・新聞資料は内容的に読解が難しい面がある。そこで、傍線や枠囲いを文章に施し、短時間でポイントを絞って読解できるようにする。
・友達と意見交流してまとめた意見文は、文字数を指定してまとめた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

新聞資料の内容も大きく影響して、全員が「今後、我が国は食料自給率を高めるべきだ」と結論付けた。理由として「今後外国で小麦などができなくて、輸入できないことがあるかもしれない」など挙げていた。

12．成果と課題

新聞資料を活用していくことで、「最近は、外国産の食料は高くなっている」という、教科書にはない観点をさらに理解することができた。そのことで、児童は、より多くの観点から自分の意見をまとめることができた。ただ、新聞資料の精選には十分配慮する必要があるし、難しい資料には読み取りに工夫する必要がある。